

文化・芸術

「手ごせ」

1943年4月、油彩・カンバス
33・0cm×24・2cm (寄託作品)

松本竣介 (1912~48年)

このたび、大川美術館に松本竣介の油彩画2点が新規寄託となりました。そのうちの一点を今回はご紹介いたします。

輪郭や鼻、手の、幼い子供特有のふんわりと丸みを帯びたフォルムと、やわらかそうな髪の毛、長いまつげが竣介の繊細な線で描かれています。よく見ると右上の髪の毛が少しハネているのも、なんともかわいらしいです。そしてこの作品においてとても印象的なのは、胸の前で握り合わされた小さな手ではないでしょうか。

前回、松本竣介の模写作品とともに、竣介が「手」の表現に重点を置いていたことをご紹介しました。今回の作品においても、「手」が作品の重要な要素となっております。顔の表情以上に、手のつくる表情が多く、何を語りかけてきます。祈っているようにも見えるこの構図。幼い子供の何げないしぐさの中に、無垢(むく)で純粹な精神を見ようとする松本竣介の、温かみ込み込むようなまなざしをうかがうことができます。(池田)

名画の扉

大川美術館常設展から

